

# 表面と真空（正式名称 Vacuum and Surface Science）執筆の手引き

2018年7月26日

公益社団法人日本表面真空学会編集委員会

会誌「表面と真空（正式名称 Vacuum and Surface Science）」に投稿する際は、「投稿規定」及びこの「執筆の手引き」に従い原稿を執筆する。投稿はJ-STAGEの投稿審査システムを用いて行い、手順の詳細フローは「Web投稿の手引き」に記された手順に従う。

## 1. 投稿原稿の作成

### 1.1 原稿の構成

原著論文・解説・総合報告・研究紹介・技術紹介・講座の原稿は、「投稿原稿テンプレート」を用いて以下の順に表記すること。

- |                |              |                   |            |
|----------------|--------------|-------------------|------------|
| 1) 表題          | 2) 著者名       | 3)所属機関            | 4) 所在地     |
| 5) Title       | 6) Author(s) | 7) Affiliation(s) | 8) Address |
| 9) 英文要旨(和文要旨*) |              |                   |            |

原稿本文の要旨を英文で書く。原著論文，総合報告，研究紹介，解説，技術紹介は150語程度とする。ギリシア文字などの特殊文字の使用は，できる限り避けることが望ましい。講座，談話室などの原稿には，英文要旨は不要である。

\*和文要旨は「英文要旨の和訳」とし，投稿票に記載する。

#### 10) キーワード

原著論文・解説・総合報告・研究紹介・技術紹介は，英文キーワードを5つ以内で取り上げ，**KEYWORD:** に続けて原則小文字で書く。

#### 11) 原稿本文

和文の場合には，原則として常用漢字を用い，新仮名使いで記す。英文の場合は，米国綴りを推奨する。

※上記以外については，事務局より執筆依頼時に指示する。

### 1.2 原稿の体裁

原稿は，原則として「投稿原稿テンプレート」を会誌ホームページよりダウンロードし，原稿の長さや図の質（Web掲載も意識），文字の見易さなどを確認するとともに，用紙の下中央に頁番号を打つこと。

[https://www.jvss.jp/vss/vss\\_index.html](https://www.jvss.jp/vss/vss_index.html)

### 1.3 電子ファイルの作成（Web投稿の手引きを参照のこと）

a. 投稿原稿のテンプレートを用い，図を貼り付ける。図は鮮明であること（300 dpi程度以上）。原稿送付は，Word（.docまたは.docx）（推奨）またはPDF（.pdf）形式とする。また，投稿票，カバーレター（速報のみ）を用意する。

b. 図・表の電子ファイルは，300 dpi程度以上で独立したファイルとして作成する。電子ファイルの拡張子は，.pdf .eps .jpeg .png .gif .jpg .tif .tiff形式とする。査読プロセスにおいては，図表をPower pointファイル（.ppt）にまとめたもので構わないが，採択後は独立した図表ファイルを用意する。

c. アップロードできるファイルの容量は総計20MBとする。

## 2. 原稿本文作成時の諸注意

2.1 表題には、原則として略語の使用は認めない。ただし略語の併記を認める。

[例] ポリエチレンテレフタレート (PET) フィルム, ダイヤモンド状炭素 (DLC), 巨大磁気抵抗 (GMR), 化学気相成長 (CVD)。

2.2 句読点

和文の場合には、句点は「。」、読点は「,」を使う。

2.2 数字

本文中で使用する数字は、原則としてアラビア数字とする。位取りのコンマは付けない。

[例] 1,500 K → 1500 K

漢字やひらがなと結合し名称として現れる数字は漢数字とする。

[例] 一つ, 二重線, 三体問題

2.3 ローマン体 (立体) とイタリック体 (斜体) の使い分け指針 (ここでのルールはあくまでも指針であるため、論文内で統一されていれば必ずしも従わなく良い)

a. 物理量あるいは変数を示す記号 : 原則としてイタリック体とする。

[例] 座標軸  $x, y, z$

[例] 化学式, 化学反応式の変数  $\text{La}_{2-x}\text{Sr}_x\text{CuO}_4$

[例] フェルミエネルギー  $E_F$  (Fは Fermi を表し, 物理量ではないので立体)

[例]  $i$  番目の原子位置  $R_i$  ( $i$  は変数なのでイタリック体, ベクトル  $\mathbf{R}$  は太字に)

b. ラテン語 : 全てイタリック体とする。

[例] *ab initio a priori ca. e. g. et al. in vivo i. e. in situ vs. etc.*

c. 演算記号・単位 : 演算記号や単位は立体とする。単位は原則として国際単位系 (基本単位, 補助単位, 固有の名称を持つ組立単位含む) を使用すること。

[例] sin cos exp  $\Delta$

[例] m (長さ) s (時間:秒) min (時間:分) h (時間:時) mol (物質質量) kg (質量) K (温度) J (熱量) Pa (圧力) V (電圧)  $\Omega$  (電気抵抗)

d. 元素記号・電子軌道 : 立体とする。

[例] Cu, Zn, CH<sub>3</sub>OH

[例] 3d 軌道, O 2p 準位

2.4 省略語

省略語は、最初に出てくるところで原綴りを書く。

[例] 密度汎関数理論 (density functional theory, DFT)

2.5 外国人名・地名

外国人名や地名は原綴りとする (アルファベット以外の文字の場合は、英語に直したものをを用いること) ただし、人名が学術語となっている場合、日本でよく知られている地名の場合は、カタカナを使うことが出来る。

2.6 脚注

本文中に \*, \*\* などの上付き記号で示し、それが現れる頁の下部に本文とは別に脚注のためのスペースを設け、その欄に記すこと。

3. 図表

3.1 本文中、図は **Fig. 1, 2, 3(a), Fig. 3(b), …**, 表は **Table 1, 2, …** で指し示すこと。

3.2 図や表のキャプションは英文とする。(編集委員会の判断により特例で和文を認める場合がある。)

3.3 図や表の中の文字は英字を用いること(数量記号として用いるギリシア文字は使用できる)。

3.4 カラー図について

- a. 著者は、図を白黒もしくはカラーのどちらで出版するかを投稿票で指定する。
- b. オンライン版ではカラー図を推奨する。ただし、同じ図を冊子版で白黒図に指定することが可能である。
- c. 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合、著者はカラー図と白黒図の双方を作成しなければならない。

3.5 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合の注意点

- a. 図のキャプションに、次のように **color online** の文言を付ける。

[例] **Fig. 1. (color online).**

- b. 本文中では、図に用いた色、または濃淡を指し示す解説をしてはならない。

[してはならない例 1] 赤色で示された領域は…ある。

[してはならない例 2] 薄い太線は、…の変化を示したものである。

## 4. 文献

4.1 本文中では引用文献を<sup>1)</sup>のように、あるいは<sup>2,3)</sup> や<sup>4,7)</sup> のように肩書きした番号で指定すること。

4.2 一つの引用番号に対しては一つの論文のみを引用すること。複数の引用論文を一つの引用番号に割り当ててはならない。

4.3 本文の末尾に、引用した文献を対応する番号と共に一覧にして記すこと。

4.4 本文の補足説明は脚注(2.6 節参照)を利用し、引用文献欄に補足説明を付記するのは避けること。

4.5 推奨されない書き方(英和文混合は避ける)

推奨されない書き方 → 1) 例えば, H. Nakai: Chem. Phys. Lett. **363**, 73 (2002)を見よ。

推奨される書き方 → 1) See, for example: H. Nakai, Chem. Phys. Lett. **363**, 73 (2002).

4.6 引用文献の例

書き方は、ジャーナルの場合には「著者名：雑誌名 **巻数**, 開始頁(発行年)」, 図書の場合は「著者名：“書名” [エディタ名] (出版社, [出版社所在地,] 出版年) [章あるいは開始頁]」([]内は省略可)を基本とする。

原著論文, 研究紹介, 総合報告, 解説, 技術紹介の引用文献は著者全員の名を明記すること。

その他, 学位論文, 予稿集, 特許に関しては下記を参照のこと。

和文ジャーナル・和文図書・英文図書の名称は省略できない。英文ジャーナルは省略が可能である。英文ジャーナルの省略規則はアメリカ物理学会(APS), もしくはアメリカ化学会(ACS)のホームページを参照のこと。省略規則があいまいな場合には, 省略せず全て書くこと。

<http://d22izw7byeupn1.cloudfront.net/files/styleguide-pr.pdf>

<http://www.cas.org/content/references/corejournals>

和文ジャーナルでは, 著者名と雑誌名を英字で表記し, 最後に(in Japanese)とすることを推奨するが, 和文表記でも構わない。ただし, 混用は避けること

- a. 和文ジャーナル
  - 1) 吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整 : 表面科学 **23**, 25 (2002).
- b. 英名和文ジャーナル
  - 2) 中村誠 : J. Surf. Anal. **7**, 91 (2000).
  - 3) M. Matsumoto : J. Vac. Soc. Jpn., **52**, 47 (2009). (in Japanese).
- c. 英文ジャーナル
  - 4) T. Hirahara, I. Matsuda and S. Hasegawa : e-J. Surf. Sci. Nanotech. **2**, 141 (2004).
  - 5) K.L. Brogan, J.H. Shin and M.H. Schoenfish : Langmuir **20**, 9729 (2004).
  - 6) Y. Morikawa : Phys. Rev. **B63**, 033405 (2001).
- c. 和文図書
  - 7) 井口洋夫, “シンクロトロン軌道放射光” 市村禎二郎, 旗野嘉彦, 井口洋夫編 (学会出版センター, 1991).
  - 8) 藤本大三郎編: “細胞外マトリックスのバイオサイエンスとバイオテクノロジー” (アイシーピー, 2010) p. 111.
  - 9) 日本表面科学会編, “X 戦光電子分光法” (丸善, 1998).
- d. 英文図書
  - 10) S. Morita, R. Wiesendanger and E. Meyer (Eds.): “Noncontact Atomic Force Microscopy”(Springer, Berlin, Heidelberg, 2002).
  - 11) H. Seki: “Electrochemical Surface Science”, ed. by M.P. Soriaga (The American Chemical Society, Washington, D.C., 1988) p. 322.
  - 12) “Surface Analysis by Auger and X-ray Photoelectron Spectroscopy”, ed. by D. Briggs and J.T. Grant (IM Publications, 2003).
- e. 学位論文
  - 13) 近藤剛弘 : 筑波大学大学院工学研究科博士論文(2003).
  - 14) D.A. Mantell: Ph.D. Thesis, Yale University (1983).
- f. 講演大会予稿集 (ページが無い時は, 代わりに発表番号を記載)
  - 15) 石井達也, 加藤英樹, 工藤昭彦 : 日本化学会第 78 春季大会講演予稿集 I (2000) p. 322.
  - 16) 相馬清吾 : 日本表面科学会第 31 回表面科学学術講演会要旨集 (2011) 16Bp-01.
  - 17) S. Aramaki and T. Murayama : Proc. of IS & T's 11th Int. Congress on Advances in Non-Impact Printing Technologies, (ex. Kyoto) (1995) p. 26.
- g. 特許
  - 18) 尾形俊昭 : 特開昭 59-75205 (1984).
  - 19) J.S. Beck : US.Patent No. 5,057,296 (1991)

#### 4.7 [オプション] DOI (Digital Object Identifier)の併記

DOI が付与されている引用文献に DOI を併記すると, リンクが付く可能性が高くなる。DOI を併記する場合, 以下の例を参考にすること。(DOI は必ずしも併記する必要はない。)

吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整 : 表面科学 **23**, 25 (2002), doi:10.138/jssj/23/285.

Y. Morikawa : Phys. Rev. **B63**, 033405 (2001), doi:10.1103/PhysRevB.63.033405.

**5. 英文校閲** アブストラクトや図表のキャプションの英文は, 著者の責任においてネイティブによるチェックなどを行うこと。

## 6. 転載許可

過去に掲載（発表，出版）された論文の全体，または図表を投稿論文で使用する際は，著作権を有する学会等への転載許可の申請が必要である。申請は著者の責任で行うこと。

本執筆の手引きに関する意見要望は，下記学会事務局までお申し出ください。

学会事務局：公益社団法人日本表面真空学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 5 階

Tel : 03-3812-0266 Fax : 03-3812-2897 e-mail : office@jvss.jp